

めぐみの学校の子

恵田小 校長室だより

令和元年六月二十八日

No. 131

恵田っ子のいのちを輝かす

キウイがたくさん実をつけ、恵田っ子ぶどう園のぶどうは粒が少しずつ大きくなってきた。野菜なども順調に育ち、すでに収穫を迎えたものもある。雨が少ないのを心配しているが、今のところ、よいタイミングで雨がふっている。

今日は、1・2年生が、校内で収穫した梅の実を使って梅ジュースづくりを行った。バケツ2杯ほどの梅がとれ、それを使った。かつては、校内で収穫した梅の実を売って、図書費にあてていたそうだ。



梅ジュースづくり、こういう学習ができるのは恵田小の学びのよさの一つ。体験的であり、人や郷土とのかかわりがあり、食育の面がある。学校で、いや、恵田小でこそできる学習である。こうした本物の学びを、日々の教科の授業とともに大切にしていきたい。

来週からは7月。早いもので、1学期もあと少し。今年度も欠席する子が少なく、今日で、授業日55日中、欠席者なしの日が44日を数えた。皆出席率が8割である。たいへんうれしい。今日で、2年生は、4・5・6月の3か月連続全員出席となった。

子供がいてこそこの学校。学校が家庭と同じように、いることが当たり前な場所であってほしい。これからも一人一人を大切にできる学校であり続けたい。子供の健康、安全、いのちを守ること、よい学びを保障することに全力を挙げ、恵田っ子のいのちをいっそう輝かせたい。

恵田っ子へ

松風文庫（まつかぜぶんこ）

松風文庫がスタートしてもう少（すこ）しで三週間（さんしゅうかん）になります。恵田っ子が親（した）しんでくれ、うれしく思（おも）います。恵田っ子と読書（どくしょ）との距離（きょり）がずっと近（ちか）づいたよう、うれしいです。



松風文庫の本（ほん）は、元（もと）校長（こうちやう）の鈴木松三（すずきしょうぞう）先生（せんせい）が寄付（きふ）してくださいました。本（ほん）を選（えら）ぶときは、読（よ）み聞（き）かせの「そよ風（かぜ）の会（かい）」のみなさんに力（ちから）を貸（か）していただきました。鈴木松三先生（せんせい）の名前（なまえ）の一字（いちじ）「松（まつ）」と、そよ風の会（かい）の一字（いちじ）「風（かぜ）」をとって、「松風文庫（まつかぜぶんこ）」という名前（なまえ）にしました。松葉（まつば）の上（うへ）を「風（かぜ）」をきってすべる「落（お）ち葉（は）スキー」をがんばる恵田っ子（めぐみのこ）にぴたりだとも思（おも）います。斎藤文庫（さいとうぶんこ）とともに大切にしていきたいです。